

近隣住民のみなさんへ

**速報 第3回計画説明会開かれる**  
**説明責任を果たさず問題点が山積みのまま「補償交渉」など不可能です。これからも説明会で「抜本の変更」を求めます。**

〈「改正条例に合わせる変更はしない」「立体模型は造らない」

9月1日、「デュークガーデン上麻生」マンション建築に関する第3回計画説明会が開かれ、前回の説明会での要望の検討、宿題の回答（「第2回説明会での住民の要望等と荒川建設の回答」参照）、質問など、3時間以上にわたって緊迫したやりとりを行いました。

建設計画の核心的問題点である、メイフラワー桝生との隣地の擁壁、離隔距離について、荒川側は「メイフラワーに沿ってくの字になっていた擁壁部分を直線にした。メイフラワーと建設予定マンションの窓との距離は6メートルになり圧迫感はない」と説明。住民側から「圧迫感がないと言われても全く生活実感と違う。立体模型をつくってイメージがわかるように説明してほしい。改正条例では、地下階を増やして高さ規制をすり抜けるこうした意図的盛土は禁止され、擁壁を設ける場合は境界線から4メートル離さなくてはならない。ぜひそこまでは下げるべきだ」と強い意見が出されました。荒川側はそれに対し

切土の量について、「宅地造成許可申請の量より多くなる。今の数字が独り歩きされるのは困る。建築確認が下りて、工事説明会までは報告しない」。尾根道仮囲いについて、「尾根道沿いの住民と個別に協議し移設する」と述べました。

**工事業業者も決まっていけないのに「工事協定書」などありえない**

荒川建設は建築確認申請を出していますが、まだ確認は下りていませんし、工事施工業者も決まっていません。ところが荒川側は、説明会の議題に確認していない「工事協定書（案）」の説明を始めました。司会者が「まだ工事協定書の話をする段階ではない。勝手な話をするのは約束が違う」と抗議したにもかかわらず、無視して話を続けました。見せかけの譲歩で統一説明会を打ち切り、住民を個別に工事迷惑やその「補償交渉」の話し合いに引き込もうという、荒川側の思惑が透けて見えました。

説明会終了後には住民集会を開催。基本的問題は残されたままであり、補償交渉の段階ではない。引き続き計画説明会を求めて、最後まで「デュークガーデン上麻生建築計画の抜本の変更を求める」ことをあらためて確認しました。「個別で補償交渉をするのは危険。住民の分断、切り崩しの常套手段だ、守る会として統一してすべき」との意見が出され、守る会としても対応準備をしていくことにしました。（説明会詳報は後日）

2013年9月6日 王禅寺・上麻生の住環境を守る会事務局